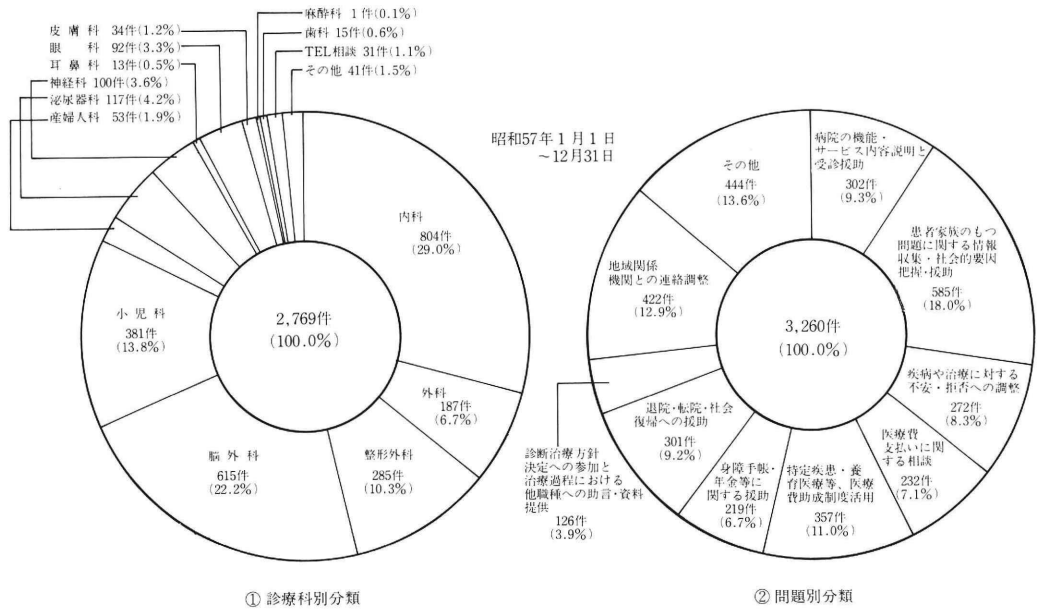


医療相談室年間報告

足利量子, 大槻文博, 高橋達男



援助内容

診療科	患者	問題	ソーシャルケースワーク援助・結果
内科	<ul style="list-style-type: none"> ○ M・K の予後不良の 62 才の男性 ○ 入院 S56. 8. 3 ○ 依頼 S56. 8.31 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者は性格的に問題があり、妻は別居中、長男夫婦と同居中であるが、折あいが悪い。 ○ 患者の受療を継続するにつき、環境面の調整を援助してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 婦長と協議、病棟の協力を得て付添は夜間のみ家族が付添うこととし、昼間の調整役に Wer. があつた。 ○ 家族間のトラブルの調整につとめ、長期的受療を援助した。 ○ 役場、民生委員の協力を得て、医療費の保障につとめた。 ○ S57. 4.20 死亡退院
内科	<ul style="list-style-type: none"> ○ DM の一人暮らしの 47 才の男性 ○ 入院 S57. 4. 8 ○ 退院 S57. 5.15 ○ 入院 S57. 8.13 ○ 依頼 S57. 3.15 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者は東京から方角がよいといつて来仙し、性格・生活歴に問題があり。入院に応じない。ほっておけば生命に危険がある。 ○ 病棟内では、主治医・Ns の指示に従わない。福祉事務所、保健所の指示にも従わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の病歴を東京の病院より聴取し、主治医へ報告。 ○ 患者の性格をのみこみ、入院を援助するも、主治医・Ns の指示を守らず事故退院。 ○ 再入院時「ここが最後の病院だ」との決意を促す。 ○ 患者との面接を頻回重ね、患者の郷里に帰りた意志を確認、福祉事務所の協力で可

診療科	患 者	問 題	ソーシャルケースワーク援助・結果
		○借間を追い出され、退院先がない。	能となる。 ○ S57.11.17 退院後郷里に帰り、S57.12.13F 県立病院入院となる。
外 科	○直腸癌の63才の男性 入院 S57.9.3 依頼 S57.8.12	○S57.8.12 内科外科医より、前記癌患者が家庭事情で入院できない。何とか入院を援助してほしい。 ○看護人がつかない。	○患者の入院出来ない状態をよくたづね、その解決にむけ親類の協力を依頼し、入院となる。 ○介護する妻の心理社会的援助を民生委員の協力で保障し退院となる。 ○S57.10.8 退院となる。S58.3 自宅で死亡。
外 科	○手術を要す。 ○入院 S57.11.15 依頼 S57.10.25	○年なので手術を受けたくない。 ○一人暮らしなのでやらなければならないことがある。それが何時終わるかわからないが……。	○主治医と緊密な連絡をとり、側面より手術に対する不安除去につとめる。 ○患者とコミュニケーションをはかり親類の協力を得る。 ○S57.12.22 退院
整形外科	○交通事故による車椅子生活の6才の女兒 ○入院 S56.9.11 依頼 S56.12	○重度障害者ゆえ小学校入学が困難	○家族、特に母親の気持を尊重し、医師と協力、地域、教育委員会、学校の協力を得て、普通校就学となる。 ○困難な状況に対応し、家族の支持を行う。 ○S57.2.28 退院
脳神経外科	○急性硬膜外出血の48才の男性 ○入院 S57.2.8 依頼 S57.2.8	○身元不明 ○入院治療につき、医療費なく、介護人がいない。	○警察の協力で姉が判明、状況説明し介護依頼。 ○福祉事務所に相談し、生活保護法入院時より適用。 ○S57.5.6 大学病院鳴子分院リハ転医（その後、援産施設に入所とのこと）
小 児 科	○ネフローゼの14才の男児 ○入院 S57.5.1 依頼 S57.12	○復学に際して、学校側で長期病欠を理由に難色をしめす。	○スモールエンジェルにより補完的に学習を援助す。 ○児童、家族の復学の意志を確認し、学校、教師、主治医・Ns、母親、ボランティア学生、MSW をまじえて協議し、復学にもってゆく。 ○S58.3.26 退院
産 婦 人 科	○62才の悪性腫瘍の疑いの女性 ○入院 S57.6.25 依頼 S57.6.28	○医療費支払いが困難 ○頼れる保障人がいない。	○事情聴取、弟が一番信頼出来るとの言により弟を保証人として、治療の継続にのぞむ体制づくり援助。 ○生活保護はボーダーライン層で、適用出来ず、借付その他を援助す。

診療科	患 者	問 題	ソーシャルケースワーク援助・結果
			○ S57. 8.11 転医
眼 科	○ 白内障手術をする 38才の留学生(男 性) ○ 入院 S57. 8.20 依頼 S57. 8.20	○ 留学生の医療費支払いの方法 ○ 不安の除去	○ 関係機関と連絡調整, 援助。 ○ 家族の支持援助 ○ S57.10. 3 退院
神経精神科	○ 心因反応の33才の 国際結婚の女性 ○ 外来 S57.10.29 依頼 S57.11. 1	○ 言語が通じないし, 夫は長期間 留守がち夫婦なかままずく感情 不安定。 ○ 不信感が強く, コミュニケー ションがとりにくい。 ○ 家族関係に問題要因が多い。	○ 言語によるコミュニケーション樹立は困難 性があるが, 態度での応待につとめる。一 応家庭裁判所の調査官に橋渡しをし, 本人 の了解を得, 裁判所まで同道し, 夫婦問題 の話し合いの場を援助す。 ○ S57.11. 2 家裁へ。

以上, 相談室の一年間の取扱い件数と診療各科の援助内容の概略である。業務は各科にわたり紙数の関係で紹介できない科も多くあるが, 援助内容は, 社会状況を反映し, 複雑多様化し, 増加の傾向にある。

相談室の業務としては, この他に「スモールエ

ンジェル」による学習室援助をボランティアの協力により年間毎週(火)金の午後実施している。

これらの業務の遂行には院内各位の協力, 地域関係機関の協力に負うところが多く, 今後も指導を仰ぎ業務の充実につとめる所存である。

(昭和58年8月2日 受理)